

# そこに 学校があった。

## 休廃校の歴史

### 興津中学校 (上)



### 「学ぶより働く」が是とされた時代

興津小学校が修道学舎という名で開校した明治7年から12年後、明治政府は「中学校令」を公布した。これがこの国の中学校制度確立への第一歩である。しかし、当時は「まずはすべての子どもを学校へ」が最優先であり、小学校教育の充実が急務だった。中学校については、ある程度成長した子どもには、中等教育の必要性よりも労働力として期待せざるを得ないという国民生活の実状もあり、その制度確立は二転三転した。

さて、まだ中学校制度が確立しきっていなかった頃「今という中学生って当時の何年生くらいか？」となると、小学校が尋常科4年、高等科4年製の制度下でいえば、高等科後半の児童がそれに当たるであろうか。明治27年、管理管轄の変更等によって東又尋常小学校に高等科が置かれた時には興津小尋常科(4年間)の卒業生が、来る日も来る日も険しい坂道を通ったこともあった。しかし、前述のように、この年齢になれば「学ぶより働く」ことが是とされた時代であったため、高等科への進学率はそれほど高くはなかった。高等科が自由制で、義務教育ではなかったことも大きな理由であった。

### 誰もが中学校で学ぶことができる時代に!

中学校が義務教育となったのは、第二次大戦後の学制改革によって教育基本法と学校教育法が施行され「六・三制」となった1947(昭和22)年のことである。両法が施行されたこの年「中学校は小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すことを目的とする」という教育目的が高らかに掲げられ、男女共学の新制中学校が、同年ここ興津にも誕生したのである。

興津村立興津中学校の最初の卒業生は、昭和21年度興津小学校高等科卒業生からスライドした中の30名であることが資料からわかる。資料にある名簿には、確かに男女の区別は

ない。誰もが中学校で学ぶことができる時代になんとか間に合った、興津で最初の子どもたちである。「80年前の子たち」に心からおめでとう!と言ってあげたい。

### 苦勞した教員の確保

戦後の新時代に入り、子どもたちが「もっと学べる場所、学んでよい場所」として船出した興津中学校は、未来が広がる希望そのものであった。そしてそれは、子どもたちにとってはもちろんのこと、地域住民にとっても同様であった。開校2年目には生徒数増加で5学級編成となり、早くも教室が不足する事態に。仕方なく生徒を午前だけのグループと午後だけのグループに分け、交代で登校させるという事態が半年続いた。その翌年には新校舎が落成するのだが、校舎建設にあたっては、生徒たちも足場用の木材を切り出しに行くなどして手伝った。新校舎落成の年には生徒数がさらに増加し6学級となった。また、地区と窪川の街を結ぶバスが開通したのもこの年である。中学校の充実と地区の生活環境の改善は、まるでワンセットのような時代であった。(次回に続く)



新校舎落成とバス開通の祝宴



終戦直後の教員は元軍人が多かった

(いずれも開校記念誌より)

### 町のうごき

(11月30日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,001	-23		男 1	17	8	15
女	7,559	-5		女 1	8	16	14
計	14,560	-28		計 2	25	24	29
世帯数	7,846	-6		(11月中の届出)			

窪川地域 10,396人 大正地域 2,009人 十和地域 2,155人